

# いさおだより

1 月号

平成 26 年 1 月 8 日

和歌山市立有功小学校

## 新年（午年）をむかえて



新年、あけましておめでとうございます。今年は午年（うまどし）、草原を駆け抜ける馬のように突き進める年にしていきたいなと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

3 学期は、それぞれ次の学年に上がる準備の学期といえます。6 年生は中学に進学する準備の学期になります。毎日一緒に生活をしていると気づきにくいのですが、子ども達は心身共にずいぶん成長しています。例えば、1 年生では、4 月の頃は学校に通学するのが不安だったのが、いつの間にか当たり前のように学校に通うことができます。高学年では、授業中に意見を発表するにも、友だちの考えを聞いて発言することができるようになっていきます。一人ひとりが成長しています。それを次の学年に繋げていく。3 学期は大切な時期といえます。頑張っていきたいですね。

さて、1 月 17 日は阪神淡路大震災があった日です。3 年前には東北地方を襲った地震と津波、南紀を襲った大水害、去年は京都も水害に襲われました。どんな災害にいつ襲われるか、分かりません。

学校では、体育館の前に災害用のトイレの設置工事が進んでいます。有功小学校の体育館は、緊急時に地域の方々の避難所として運営されます。そのためにトイレの工事をしています。大災害はきて欲しくはないのですが、「備えておく」ことはとても重要なことです。2 学期の終業式の時に子ども達に宿題を一つ出しました。それは、お家の方と「もし、何か大災害にみまわれ、家族と一緒にいないときに、どこに行けば会うことができるか、決めておく話し合いをしておきましょう。」とみんなに言いました。大災害はいつ起こるか分かりません。家族が、大切な人が一緒の時とは限りません。そんな時、どこに行けば連絡が取れるか、どこで落ち合うのか家族で決めておいて欲しいのです。また、そういったことを話し合うことも家族の絆を深めるために大切なことだと思います。東北地方の海岸の町では「津波てんでんこ」という言葉があるそうです。家族がお互いを捜しあうのではなく、まずは安全になるまで自分の命を守るために「一人で逃げなさい。」ということです。この言葉の裏には、家族それぞれが「きっと逃げ延びている、あの場所に行けばまた会える。」という固い信頼関係が築かれているのです。そのためにも、普段から話し合っておいてください。

（学校長 小林 達史）